



金刀比羅宮 御本宮

長い石段を登りきると、檜皮葺の御本宮が静かに姿を現す。屋根は陽光を受けて柔らかく輝き、精巧な彫刻が施された社殿は、威厳と気品をたたえながら

「七・八・六」が「悩む」に通じることから、閤峠の手水舎の手前で一段だけ下げて七八五段にしたという話が伝わる。この由来には、どこか洒落心も感じる。こんぴらさんで唯一の「下がる石段」もぜひ体験を。

ちなみに、御本宮までは実際には七八六段あるが、

旭社を経てさらに石段を上ること十数分、ようやく御本宮が見えてきた。

讃岐平野の中央に、ゆるやかな稜線を描いてそびえる象頭山。その中腹に鎮まる金刀比羅宮は、古くから「さぬきのこんぴらさん」と呼ばれ、広く人々の信仰を集めてきた。

参道には土産物店やうどん店などが軒を連ね、往時のにぎわいが今も息づく。杖を手に、導かれるように一步を踏み出した。大鳥居をくぐると、どこまでも続きそうな石段が視界に入る。急坂を上ったところが大門。俗世の喧噪が遠のき、木立を渡る風が心地よい。大門を抜けると、木々のざわめきが参拝者を包み込む。旭社を経てさらに石段を上ること十数分、ようやく御本宮が見えてきた。

金刀比羅宮

香川県仲多度郡琴平町



多くの参拝者で賑わう参道

神馬

令和八年は丙午（ひのえうま）の年。金刀比羅宮は全国でも珍しい神馬を飼育する神社で、神馬舎では光驥号と白平号の神馬に会うことができる。



御本宮天井の蒔絵



幸福の黄色いお守り
こんぴら狗みくじ

御本宮社殿前の広場からの景色

こんぴら狗の像



おみやげ紹介

讃岐の恵みを活かした
おいしい商品がいっぱい！

- 1 炙まん
- 2 うちわ
- 3 こんぴらプリン
- 4 金陵(日本酒)
- 5 加美代飴
- 6 てぬぐい
- 7 さぬきうどん
- 8 のり天
- 9 船々せんべい
- 10 なんでもだし醤油
- 11 骨付鳥の素
- 12 おいりソフトクリーム
サンドクッキー



参拝者を迎えてくれる。この御本宮には、江戸の蒔絵師による「桜樹木地蒔絵」が施されている。漆を塗らず、木目の美しい檜に直接蒔絵を描く独特の技法で、南の壁に幹を、北の壁に枝を配し、両壁で一本の桜を表す壮麗な作品となっている。拝殿内の天井にも、それぞれ意匠が異なる百三十八枚の桜が描かれている。平成の修復では、銀板をプラチナ箔に替えて輝きを再現。金箔の枝に白く映える桜は、光によって淡い桃色にも見え、往時の優美な姿を今に伝える。

金刀比羅宮は大物主神を祀り、古くは「琴平神社」と称した。平安時代後期、神仏習合の影響を受けて「金毘羅大権現」と改められる。その際、保元の乱で讃岐に配流された崇徳天皇の御霊も合わせて祀られるようになった。以後、神威はいつそう高まり、江戸時代には朝廷や諸大名、庶民に至るまで篤い信仰を集めた。「こんぴらさん」の愛称は「金毘羅大権現」に由来する。明治元年の神仏分離令により「琴平神社」に戻り、同年「金刀比羅宮」と改称して今日に至る。

御祭神である大物主神は、海上交通の守護神として知られ、航海の安全を祈る人々の信仰を集めるとともに、農業・医業・技芸の神としても厚く崇敬され

た。江戸時代、金毘羅信仰は庶民の間に爆発的に広がる。「一生に一度はこんぴら参り」社寺参詣が庶民に許可された唯一の旅であった当時、人々にとってこんぴら参りは一世一代の夢であった。信仰は文化も生んだ。参道近くにある旧金毘羅大芝居(金丸座)は、江戸後期に建立された現存する日本最古の芝居小屋として知られる。参拝客を楽しませるために芝居興行が行われ、有名な役者たちが金毘羅大芝居のひのき舞台を踏んだといわれている。海の守護神はやがて芸能の神としても崇められるようになり、「祈り」と「芸」を一つに見る日本人の美意識が息づく場所となった。

参道を登る石段の途中、小さな犬の像が静かに佇む。その姿に倣うように、犬を連れた参拝客の姿も目にする。江戸時代、庶民憧れのこんぴら参りも、貧しさや病、老いのために自ら参拝できない人々は少なくなかった。そんな人々は犬に願いを託したと伝わる。犬の首には「こんぴら参り」と書かれた袋がかけられ、中には飼い主の名を記した木札、初穂料、道中の犬の食費が入っていた。犬は旅人や街道筋の人々に世話をされながら、見知らぬ人々の善意に導かれ、遠い讃岐の地を目指した。こうして旅人から旅人へと託され、ついに目的地へたどり着いた犬

が「こんぴら狗」といわれる。もうひとつ、こんぴら信仰を語るうえで興味深いのが「流し樽」の風習である。航海の安全を願いながらも、自身は海上にあるため参拝できない船乗りたちは、初穂料や御神酒を納めた樽を海へ流し、神前への奉納を託した。樽は潮に乗って琴平の浜へ流れ着き、代参として祈りを果たしたという。信仰と人の思いやりが生んだ絆の象徴であり、江戸の世の温かな風習を今に伝えている。

御本宮社殿前の広場から眺める讃岐平野の先には、瀬戸内の海がきらめき、遠くに瀬戸大橋も見える。長い石段の先にあるこの絶景は、訪れる者すべてを迎えてくれるかのようだ。古来、船乗りたちは象頭山を航路の目印にしたという。金刀比羅宮は山に鎮まりながらも、海とともにあった。ここには千年を超えて人々が積み重ねてきた祈りの時間が流れている。石段を登る足音も、かつての旅人と重なり合うように響く。時代は移り変わっても、こんぴらさんの道は今も人を惹きつけてやまない。信仰の山として、文化と自然が交わる聖地として、金刀比羅宮は今日も変わらぬ姿で旅人を迎えている。



中野うどん学校 琴平校



お立ち寄りSPOT

旧金毘羅大芝居(金丸座)

現存する日本最古の芝居小屋で、国の重要文化財として指定されている。毎年4月に開催される四国こんぴら歌舞伎大芝居は、全国から歌舞伎ファンが訪れ、四国路に春を告げる風物詩となっている。



香川県仲多度郡琴平町1241
TEL 0877-73-3846
営業日/年中無休
(公演開催時は休館の場合あり)
営業時間/9:00~17:00
入館料/大人500円 中・高校生300円
小学生200円

さぬきうどんの手打ち体験ができる施設。体験後には、作ったうどんを試食したり、自宅に持ち帰ったりできる。音楽に合わせて踊りながら生地を作るなど、誰もが楽しめる工夫が盛りだくさん。

香川県仲多度郡琴平町796番地 TEL 0877-75-0001
営業時間/8:30~17:30 年中無休
うどん打ち体験 要予約 1名1,760円 ※2名以上予約可

